



[様式第3号]

資料提供年月日	令和 4年 4月 14日	
問い合わせ先	課 名	オリエント美術館
	電 話	直通 232-3636 内線
担 当 者	職名・氏名	館 長 横 田
	職名・氏名	主査学芸員 四 角

広 報 連 絡

<市長定例記者会見資料>

- 1 件 名 オリエント美術館の再開館について
- 2 趣 旨 オリエント美術館は建物の長寿命化を図るため、令和2年10月より休館し、改修工事を行い、4月22日(金)に再開館いたします。
リニューアルの見どころを紹介します。
 - ① 館蔵品展の一新
 - ② ラウンドスクリーンを設置した映像コーナーの新設
 - ③ 洗面所に、中世ペルシアの絵付け技法を再現した「ラスター彩手水鉢」(七代加藤幸兵衛作)の設置
- 3 日 時 令和4年4月22日(金) 午前9時
- 4 場 所 岡山市立オリエント美術館
- 5 内 容 1) 館蔵品展の一新
館蔵品展「シティライフの始まり、オリエント」
開館以来、広範なコレクションの特徴を生かした通史展示を基本としてきましたがこれを改訂し、新館蔵品展「シティライフのはじまり、オリエント」は親しみやすさを重視したトピック展示へと変更します。世界最古の文明で繰り広げられた都市生活をテーマに、パンやはきもの、ヘアメイクなど身近な日常生活のはじまり、ろくろや金属利用といった技術や専門職のはじまり、都市に渦巻く来世や現世への不安、都市の仕組みや恵みなどのトピックについて、館蔵品を用いて紹介します。

2) ラウンドスクリーンを設置した映像コーナー新設
開館以来親しまれたオリエンテーションルームにラウンドスクリーンを設置した映像コーナーを新設し、先史からイスラーム時代にいたるオリエント地域の歴史と文化を映像で学ぶことができます。

3) 洗面所に、中世ペルシアの絵付け技法を再現した「ラスタ
ー彩手水鉢」(七代加藤幸兵衛作) の設置
ラスタール彩技法はやきものに金属光沢を与えるイスラーム陶器特有の絵付け技法で約200年前に途絶えました。これを再現した「ラスタール彩手水鉢」制作し、開館以来初の実用的美術品の試みとして、展示場2階の洗面所に設置しました。

オリエント美術館の再開館について

再開館期日

4月22日(金)

主な経過

1979(昭和54)年4月開館

築40年超、長寿命化を図るための大規模改修。

2019(令和2)年10月より、休館(1年5ヶ月)

展示場関連：3つの改修ポイント

①展示手法の変更

目的：親しみ易さと
学びの両立

従来「通史展示」

時間軸に沿った展示法で、ものごとや社会の変遷



改訂「トピック展示」

親しみやすいものごとに絞った紹介、直観的な分かり易さ

新館蔵品展「シティライフのはじまり、オリエント」

都市生活をテーマに4つのテーマで、様々なものごとのはじめりを紹介

都市の日常生活



化粧のはじまり ハスタイルのはじまり

都市で花開く技術



書記のはじまり 金属利用の始まり

都市生活者の不安



死後の世界 現世のまじない

都市の仕組み



土地売買契約文書 ハコのはじまり

②ラウンドスクリーン
を設置した映像コー
ナー新設

大きさ：約6.5m×01.7mのラウンドスクリーン

目的：時間軸に沿った理解の補助

内容：美術館設立の経緯、文明の成立からイスラームに至るオリ
エント史の概観



今後の追加予定コンテンツ

- ・収蔵品の拡大画像
- ・九州国立博物館で撮影したCT画像
- ・海外での発掘調査現場
- ・学芸員の研究成果 etc.

③洗面所改修と
「ラスター彩手水鉢」
の設置

目的：実用的美術品の試み

内容：「ラスター彩手水鉢」（七代加藤幸兵衛氏作）5基設置。
館蔵品図柄、ペルシア風景図柄など全点異なる絵付け。

ラスター彩はやきものに金属の煌めきを与えるペルシア陶器特有
の絵付技法。9世紀に出現、17世紀末に消滅。

人間国宝加藤卓男（1917-2005）が再現に成功、七代加藤幸兵衛氏
が継承。2階「光庭」に展示ラスター彩組みタイル「曙光」は、
加藤卓男氏作。



男子洗面所

女子洗面所

